

目標から招かれるほどに

山口県

松崎少年剣友会

中学2年 藤井 瑞貴

私は、今年の七月の山口県中学校剣道選手権大会において忘れられない敗戦をした。全国大会や中国大会につながる大切な試合、三年生の先輩方にとっては中学校生活最後となる大切な試合において、自身の力不足により大切な場面で敗れ、チームの最大の敗因となってしまった。先輩方への申し訳なさ、自分自身への苛立ち、自分がやってきたことは間違っていたのかという悲しさ、自分の試合に対する後悔と、様々な思いが交錯し、涙が長い間止まらなかった。

ちょうど同じ時期に、一昨年度甲子園で優勝し、昨年度は準優勝という輝かしい成績を収めた仙台育英高校の野球部が、甲子園の県予選で敗れ、三年生に向けて須江航監督が語り掛ける場面をニュースで見た。監督の話す言葉が身に染みて、少しだけ前を向く気持ちになれた。その後、稽古に参加すると何人もの先生方から「前を向け」と温かい励ましの言葉をいただいた。

中学校での剣道の最後の一年をスタートするにあたり、自分はどんな気持ちでこれから剣道と向き合うべきか、しっかりと考えた。その中で、母からの勧めもあり、須江監督の著書を読み今後の自身の指針となる言葉にであった。

「日本一からの招待」これは、仙台育英高校野球部のスローガンである。その真意は、「目標から招かれるほどに、それぞれの本質を追求する。技術だけでは足りず、心だけでは足りず。心技体すべての条件を満たせたとき、目標とするものに招かれる」というものである。

これまでの自分の剣道との向き合い方を振り返ってみると、自分なりには努力をしてきたつもりであった。しかし、今それが「目標から招かれる」ほどのものであったかと問い直せば、不十分な点や改善すべき点はたくさんみつけることができる。

技術の面では、自身の現在の強みや弱みを客観的に捉えた上で、考えながら稽古を重ねることができていたのだろうか。また、先生方からの御指導に真摯に耳を傾け吸収しようとする謙虚さを失っていなかったのだろうか。一見頑張っているように見える自身の取組に改善すべき点がたくさんあった。

心の面では、周囲に気を配り率先して動くということを意識していたが、目に見える気づきに対応することが中心で、想像力を働かせてやるべきことを考え、行動に移すということではできていなかったように思う。これからは、最上級生となり、チームを引っ張っていく立場になる。自身が動くだけでなく、松崎少年剣友会の剣士全員が自身のことはもとより他者のために貢献し、気配りができる集団となれるようチームに働きかけていく

い。

どれだけ真摯に稽古に向き合い、心を磨いても試合は簡単に勝てるものではない。しかし、目標を掲げ、それに向かって挑戦し、結果を分析しながら、また努力をし、自分自身と向き合い続け、改善し続けていくことこそが剣道を通して人間形成をするという剣道の目的につながってくるのだと思う。

今後のことをしっかり考えたことにより剣道の試合における自分自身の目標がはっきり定まった。一年後、あの時の敗戦があったから今の自分があると思えるように、これからの一年間を「目標から招かれるほど」に心技体を磨き、鍛えるものにしていきたい。

「人生は敗者復活戦」これは、須江監督の座右の銘だ。優勝するチーム以外は、みな敗者となる。その敗者となった経験から何を学び、敗者復活戦をどう戦うのかで同じ敗戦でもその意味は大きく変わってくると思う。私の敗者復活戦が、これからスタートする。